

第6分科会「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」

(報告者) 浜田市教頭会所属

1 「全国公立学校教頭会の調査」について

全国公立学校教頭会では、副校長・教頭の社会的地位と職能の向上、全校公立学校教頭会の施策提言能力を高めることを目的として、「団体調査」と「個人調査」を実施している。調査結果は、全公教の総務・調査部会で分析・考察を行い、報告書作成・HP上での公開を通して全国の単位教頭会・副校長会、会員に提供している。また、第6分会で取り上げ、要請活動のエビデンスとして活用している。

2 「文教政策の要請」について

- ①義務教育国庫負担制度の復元・改善、人材確保法の趣旨を堅持、教育の機会均等の原則を担保する施策
 - ②学校における働き方改革を進め、学校教育の質の向上と学校の組織的運営を推進する施策
 - ③学校・家庭・地域の連携・協力を深める教育環境整備のための施策
- 以上の3提言を柱として、単位教頭会・副校長会での要請活動に取り組んでいる。

3 講演

演題：学校組織マネジメントを推進する上での副校長・教頭の役割

講師：環太平洋大学 教授 浅野 良一 氏

内容：学校教育目標の達成及び教職員一人ひとりの資質・能力の向上に向け、副校長・教頭として、組織及び個人の強みを活かしながら人材育成をどのように行うかについての提案があった。

4 グループ協議 ～協議の柱～

柱1 勤務校における教職員の勤務の実態や働き方

柱2 勤務校における人材育成等について

北海道の中学校、東京都の義務教育学校、新潟県の中等教育学校、千葉県の小学校の教頭での協議となった。学校種による業務改善の取組の違いが明確であった。小学校は、勤務外時間勤務が多くなる傾向があった。県立の学校では、施設管理者がおられるため、施設の施錠の時刻が決められているので勤務時間外勤務の時間が長くない。留守番電話の導入や出欠アプリの活用などが全国的に進んでいることも分かった。

5 意見交流

若手教員のためのメンター制度、出退勤システムの見える化等、各グループの内容を共有した。

6 指導助言

企業における業務改善は「人材」をかけずに「結果」をだすこと。学校における業務改善がここに向かっていないことについて言及された。

【報告】第6分科会「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」

(報告者) 仁多郡教頭会所属

○講義概要

講師：環太平洋大学 教授 浅野良一氏

「学校組織マネジメントを推進する上での副校長・教頭の役割
～多忙を克服する校内での人材育成～」

1 組織マネジメントにおける副校長・教頭の役割

(1) 副校長・教頭の役割

・「補完」「補佐」「てこ」

(2) 副校長・教頭のリーダーシップ

・校長に対し貢献力が高く、批判力も高いことが理想

(3) 副校長・教頭の問題解決

・「現状」と「ありたい姿」の間にある「問題」(課題)の見える化

・「問題」を共有することで8割は解決したも同然

・「問題」解決への3つのアプローチ

原因つぶし 阻害要因減少 促進要因活用

2 多忙を克服する人材育成の考え方

(1) 人材育成の基本事項

・将来必要な能力、集団の能力、意欲の育成

(2) 教職員が育つ機会・経験

・10の「場」の例示

挑戦的な目標設定 メンター制 ワイガヤ職場

ふり返り 外部連携 先進校視察 研修会

自主学习 トラブル対応 三遊間ゴロへの気づきを促す

(3) 意欲を育てる

・意欲は「媒介変数」

・責任感を持たせる、達成感を持たせる、承認する。

○質疑及び協議

・「安楽正早」が基軸

・過剰機能を抑制(必要以上のことは排除)

・時短につながる校内の整理整頓

・職員との対話で大切なのは**啐啄**